

山賀ざくろソロダンス公演「卒業」

日 時：2007年3月24日(土) 19:00 開演

3月25日(日) 15:00 開演

(開場は開演の20分前・各日定員30名)

会 場：Studio GOO (京王線千歳烏山駅下車徒歩5分)

東京都世田谷区粕谷4-7-19

03-3326-4945 (公演当日のみ)

料 金：前売・当日とも 2000 円

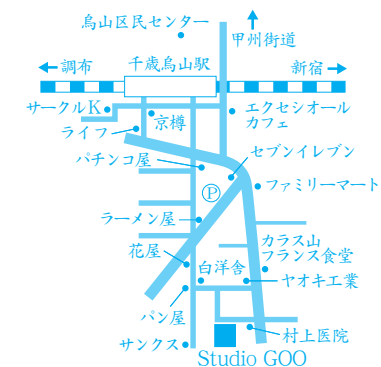
予 約：JCDN ダンスリザーブ

<http://dance.jcdn.org/>

お問い合わせ：zakuroro@gmail.com



山賀ざくろ：前橋生まれ、今も住む。高校2年の体操部の夏合宿の時、ダンスやってみたんだよね、と踊るまねをしながら後輩の部員に話したのを覚えている。でも、ダンスを習い始めたのはもっとずっとあとになってから。2002年JCDN踊りに行くぜ!!に出演。以後、ラボ20、ラボセクション、ダンスがみたい!、吾妻橋ダンスクロッシング等で作品を発表。2005年NHKBS-2ダンスの国の朔太郎に出演。2006年トヨタコレオグラフィアワードのファイナリストとして最終審査会に出場。



西側東側、どちらの改札からも行けます。
改札を出て右側の階段(南側)を上ってください。

今度やるダンスのタイトルは「卒業」って、知り合いのダンサーの女の子に話したら、セーラー服着てやるんでしょ、ってあっさり言われた。ほとんどそのつもりだったので、なんでわかったのお〜、と笑顔で返答してはみたものの、さすがにわたしの表情筋は動揺を隠せず、ヒクヒクと微細な運動を繰り返していた。なるほどわたしの狙いはあたり前すぎたのかもしれない。そんなにわかりやすくていいのだろうか。女装を含め、セーラー服を着てやるかどうかは保留にしておこう、とそのとき思った。

前作「ヘルタースケルター」で、生まれて初めてスカートはいて踊って、太もものあたりがスースーするのが新鮮で心地よく、男であることの呪縛から少しは解放された気分にもなれたし、それはそれでよかった。どうして女子高生の気持ちかわかるんでしょう、って感想を寄せてくれた大学生の女の子もいたし、ちゃんとわかってくれる人がいることはうれしかった。でもなんだろう。なんかかもやましたすっきりしないものが残っていて、そのことを考えていたときに、昔々わたしが十代のころ好きだった N 子ちゃんのことが、なぜかふと思い出されてきた。

N 子ちゃんは確か小学6年のときに転校してきて、わたしと同じ班になった。給食のときには班ごとに机を並べかえて食べていた。

いきなり目の前に座った N 子ちゃんにわたしはドギマギして、うっかり牛乳ビンを倒して床に牛乳をぶちまけてしまい、気がつくとおまけに鼻血まで流していたのだった。わたしは N 子ちゃんに一目惚れをした。あの頃のわたしは告白なんかできるはずもなかったが、N 子ちゃんに会えるだけで毎日の学校がぐっと楽しくなった。そんな学校生活が続くうちに、ふたりは両想いだと、わたしは勝手に思い込むようになった。でも年が明けて、どうも N 子ちゃんは大学附属の中学校を受験するらしいことがわかり、わたしはもうじき会えなくなってしまうかもしれないことを悲観したからなのか、登校しても授業中に気分が悪くなってしまう日もあり、先生に早退を申し出たこともあった。そんなとき N 子ちゃんはわたしのほうを振り返るでもなく教科書に向かっていたのがなんともせつなかった。結局ふたりは同じ公立中学に進学したが、3学年とも同じクラスになることはなく、たまたま学校内ですれちがうことがあっても、わたしは金縛りにあったようにからだが硬直してしまい、赤の他人のようにただ通り過ぎるばかりだった。それでもわたしは N 子ちゃんのことがずっと好きで、卒業式の数日後に意を決してラブレターを出した。そして N 子ちゃんの家へ電話をしたが、妹が出て N 子ちゃんの不在を告げられた。その後わたしは N 子ちゃんに手紙を書くことも電話

をかけることもなかった。N 子ちゃんとわたしは高校はそれぞれ女子校と男子校に進学したので二度と会うことはなかった。高校在学中に、N 子ちゃんが東京の高校に転校した、という風の便りを一度聞いただけだった。わたしは高校3年で別の女の子を好きになるまでずっと N 子ちゃんのことが心の片隅に残っていたわけだから、6年間も片思いをしていたことになる。大人になってからずいぶんいろいろな恋を経験したが、ひとりの女の子を好きでいた期間がいちばん長いのは N 子ちゃんだったわけで、そのことにちょっとびっくりして、こうして文章を書いてチラシのレイアウト作業をすすめているうちに、すっかりあの頃の思い出に浸ってしまった。

山賀ざくろを名乗って今年でもう10年目になる。やばい。そんな節目でもある年の3月に、世間の卒業モードに便乗して踊らせていただく山賀ざくろの「卒業」です。でもほんとに卒業するの? できるの? したくないんじゃないの? という声も聞こえてきそうだ。人生に卒業はないでしょ、と言ってしまえば身も蓋もないが、“卒業”のふた文字は今のわたしの身に染みるんです。

会場の Studio GOO は駅からさほど遠くはありませんが、閑静な住宅街の中にあるので、曲がり角をひとつ間違えると迷子になるかもしれません。どうぞお気をつけてお越しください。